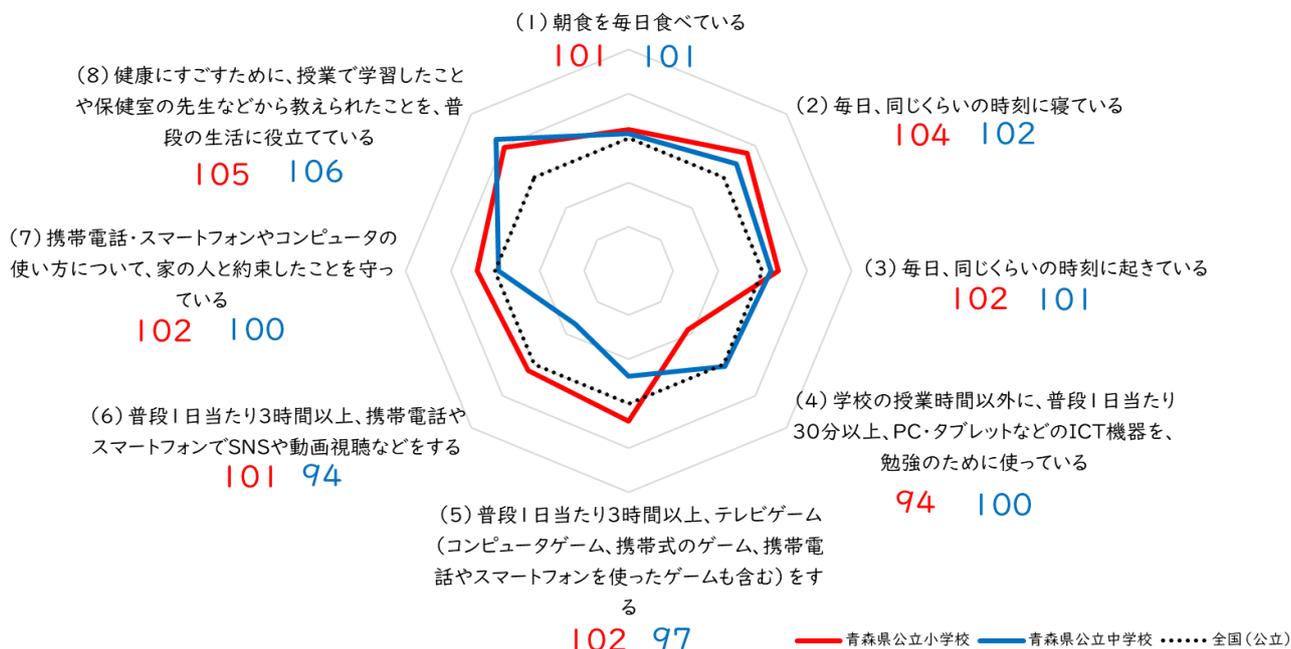


IV 質問紙調査

I 児童生徒質問紙

① 基本的な生活習慣等



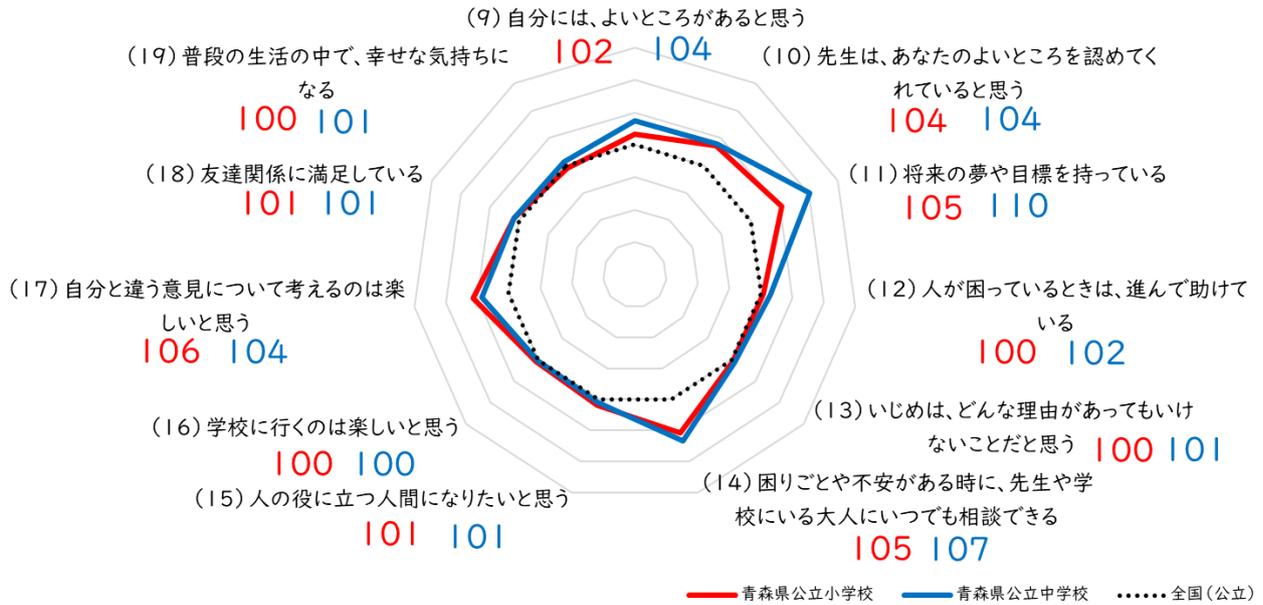
- ・小・中学校ともに、(8)「健康に過ごすために、授業等で学んだことを普段の生活に役立てる」が全国より上回っている。
- ・中学校では、(5)(6)「1日当たり3時間以上、テレビゲームやSNS、動画視聴をする」が全国より下回っている。

☆以下の回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

- ・(5)「普段1日当たりテレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間が短い児童生徒。」

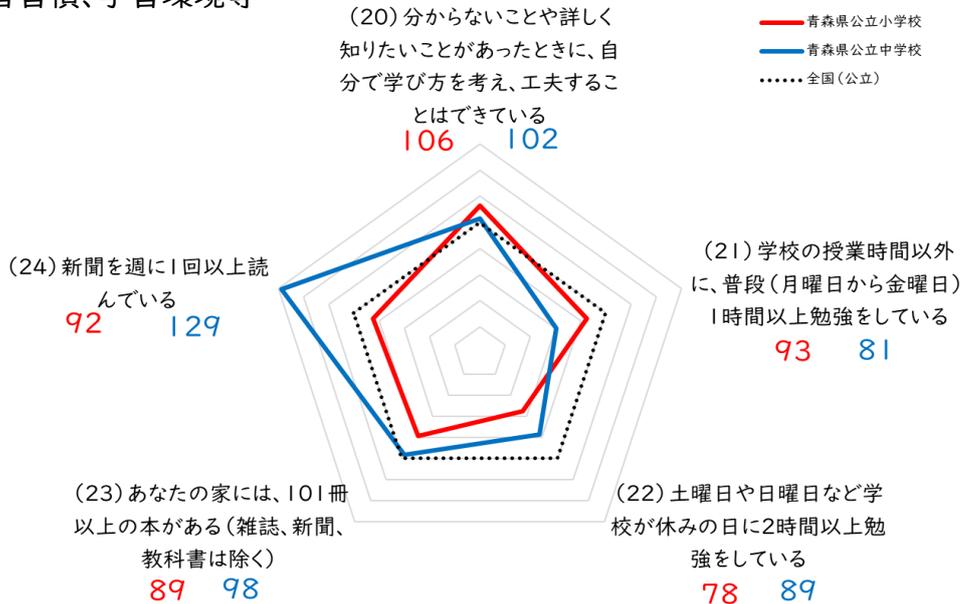
全国		本県	
小	中	小	中
0	0	0	0

②挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等



・全ての項目において、全国を上回っている。
 ・小学校では(17)「自分と違う意見について考えるのは楽しい」、中学校では(11)「将来の夢や目標を持っている」が全国よりも大きく上回っている。一方、(16)「学校に行くのが楽しい」は全国並みである。

③学習習慣、学習環境等



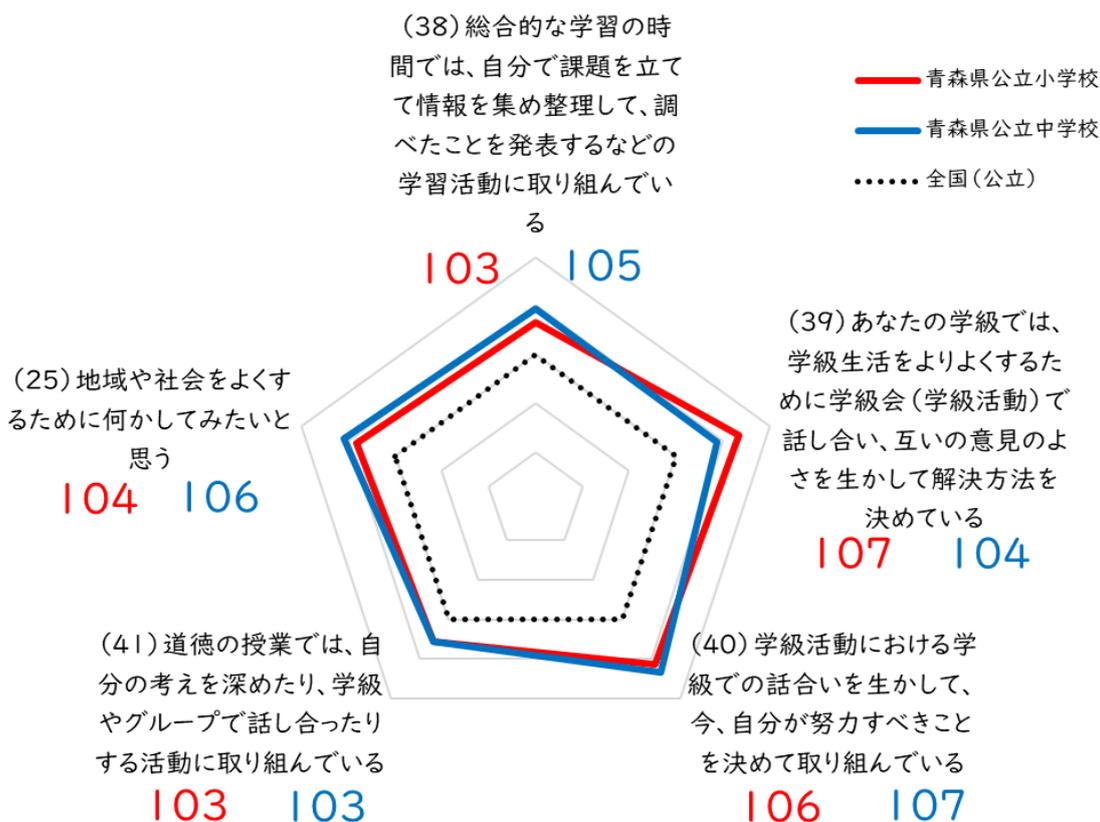
・小・中学校ともに(20)「自分で学び方を考え、工夫することはできている」が全国よりも上回っている。一方、平日及び休日における家庭での勉強時間は、全国より少なくなっている。
 ・小学校より中学校の方が、(24)「新聞を週に1回以上読んでいます」(23)「101冊以上の本がある」と回答した割合が高い。

☆以下の回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

- ・(20)自分で学び方を考え、工夫することができている。
- ・(21)学校以外に、普段(月曜日から金曜)1時間以上勉強する。
- ・(22)土曜日や日曜日など学校が休みの日に、2時間以上勉強する。
- ・(23)家に101冊以上の本がある。

全国		本県	
小	中	小	中
			0
0			
	0		
0	0	0	0

④総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳、地域や社会に関わる活動の状況等



(26) 「放課後や週末に何をしてお過ごしことが多いか」の回答 ※回答が多い順、複数回答可、(%)

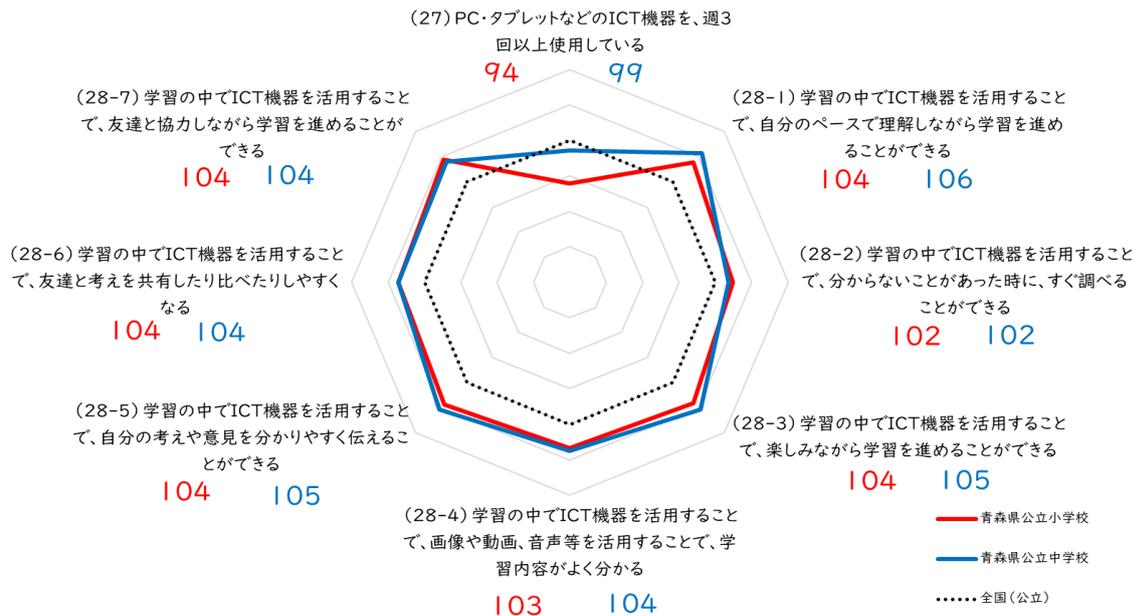
小学校		中学校	
家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている	84.1	家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている	90.8
家族と過ごしている	69.7	学校の部活動に参加している	76.3
友達と遊んでいる	60.3	家族と過ごしている	72.1
家で勉強や読書をしている	51.0	友達と遊んでいる	64.5
スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている	48.0	家で勉強や読書をしている	48.5

・全ての項目において、全国平均を上回っている。

・小・中学校ともに学級活動に関する項目が全国よりも上回っている。小学校では、(39)「話し合いを通して、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている(いわゆる学級活動(1))」割合が特に高く、中学校では、(40)「学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組む(いわゆる学級活動(2)(3))」割合が特に高い。

・放課後や週末の過ごし方については、小・中学校ともに、テレビ・動画・ゲーム・SNSの利用が最も多く回答されている。

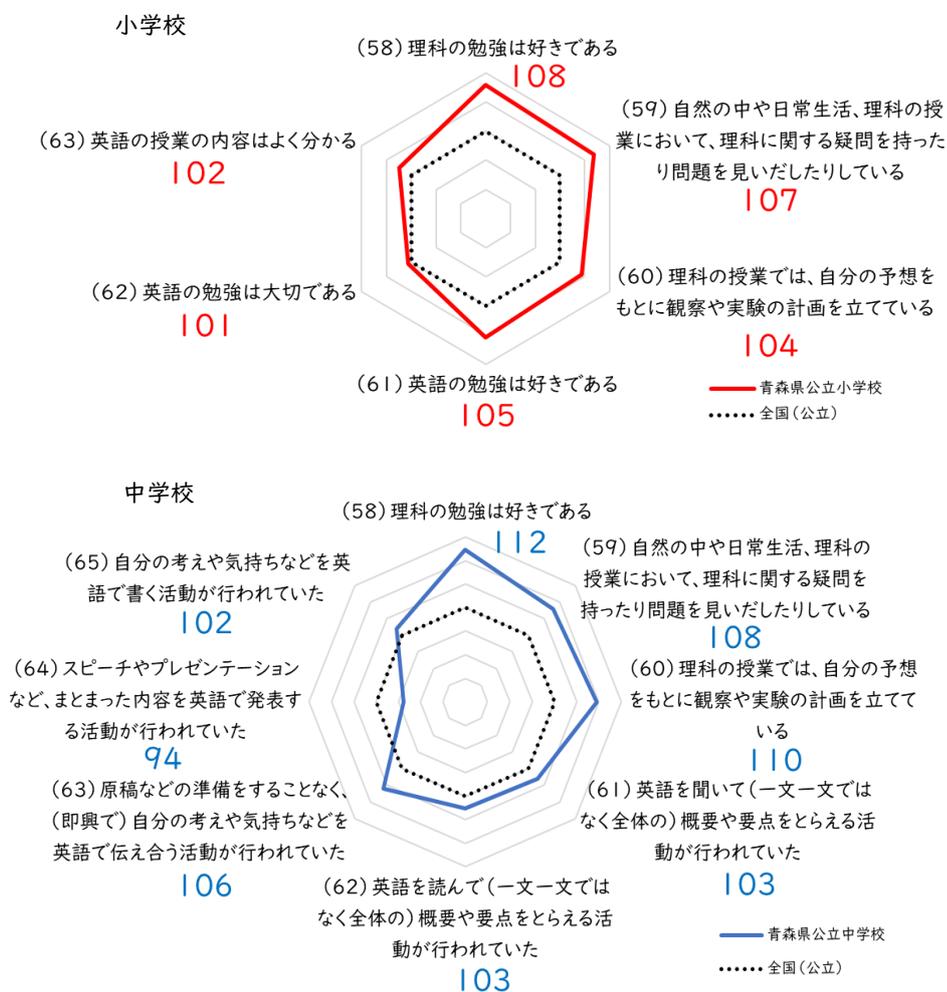
⑤ICT を活用した学習状況



・小・中学校ともに、学習の中で ICT 機器を活用している割合が全国よりも上回っている。特に、(28-1)「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と実感している割合が、小・中学校ともに高くなっている。

・(27)「ICT 機器を週3回以上使用している」割合は、全国より少なくなっている。

⑥学習に対する興味・関心や授業の理解度等(理科・英語)

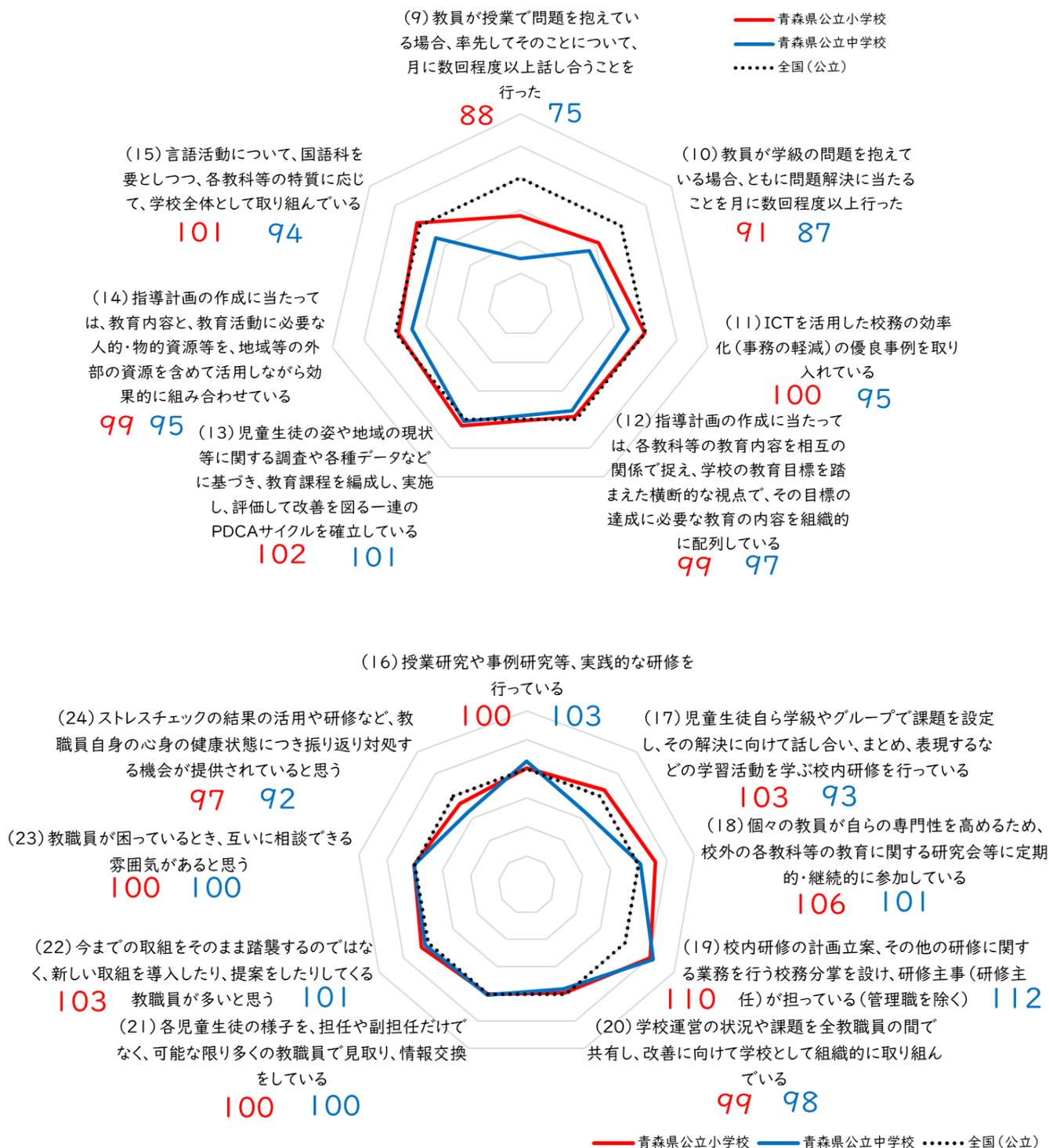


・理科は、小・中学校ともに同じ質問であり、全国よりも上回っている。特に、中学校の方が小学校より数値が高い。

・英語は、小学校と中学校で質問内容が違うが、小学校では(61)「英語が好きである」、中学校では(63)「自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われている」と実感している割合が、高くなっている。

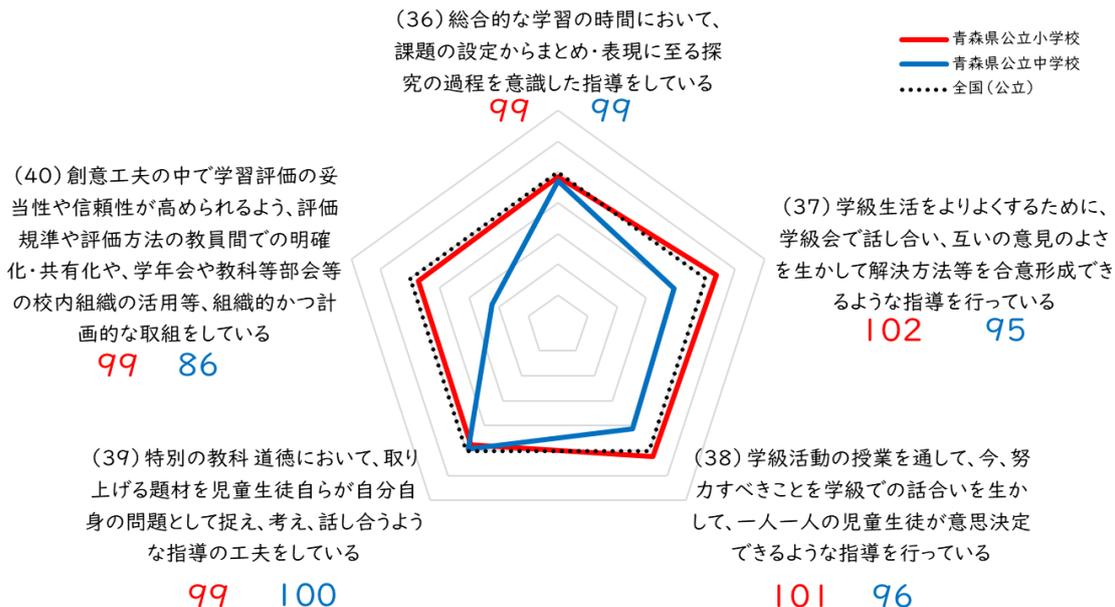
2 学校質問紙

①学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況



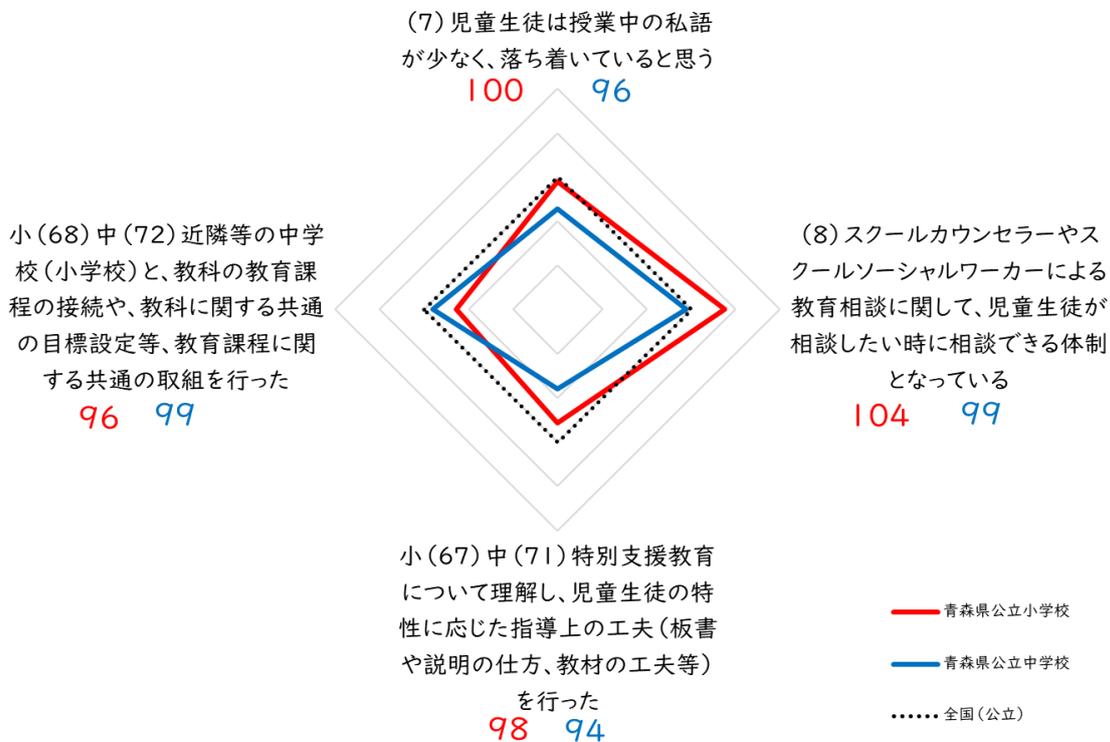
- ・小・中学校ともに、(19)「研修に関する業務を行う校務分掌を設け、研修主事(主任)が担う」が全国より大きく上回っている。
- ・小・中学校ともに、(9)(10)「教員の悩みについて、話し合う(相談する)」ことが、全国を下回っている。

②総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法、学習評価



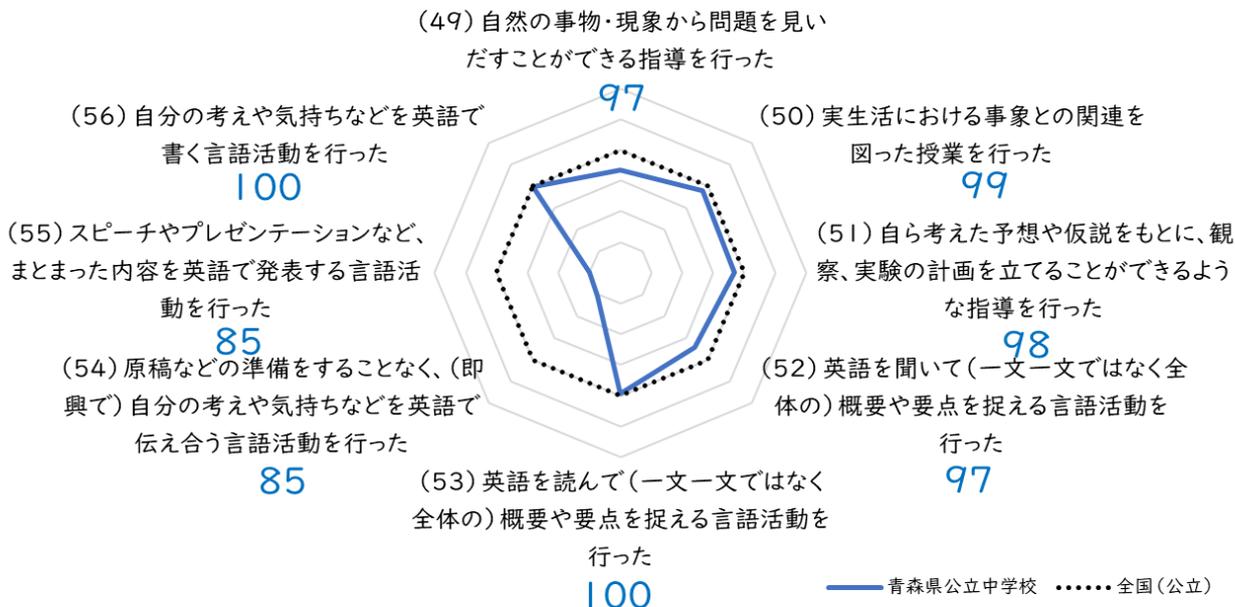
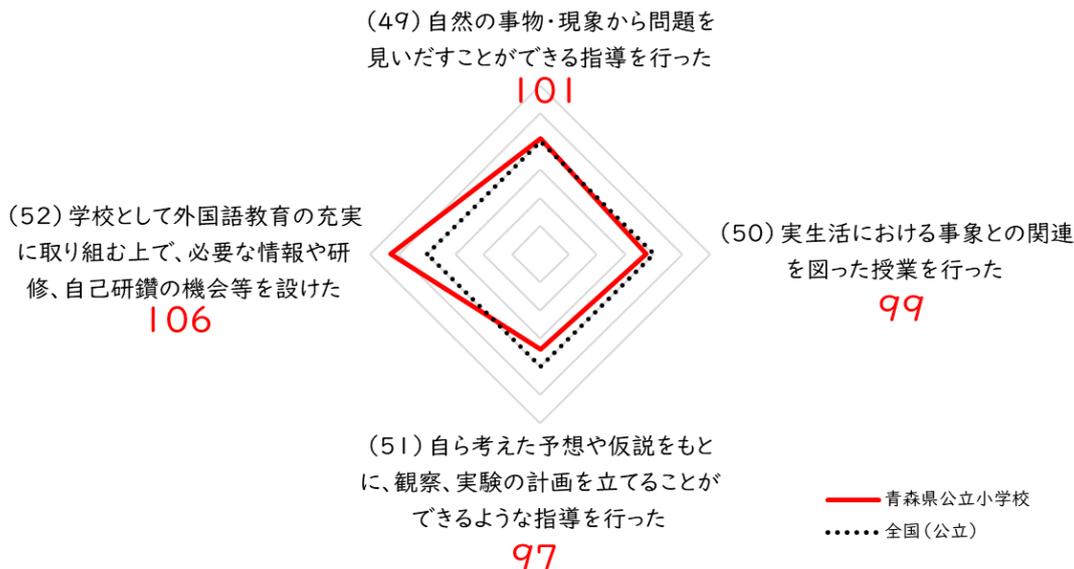
・小学校では(37)(38)特別活動に関して全国より上回っており、中学校では(39)道徳に関して全国並みである。
 ・小・中学校ともに(40)学習評価に関して、全国を下回っている。
 ・中学校では(37)(38)特別活動に関して、全国を下回っている。

③生徒指導等、特別支援教育、小学校教育と中学校教育の連携



・(7)(8)生徒指導に関して、小学校は全国より上回っており、中学校は下回っている。
 ・小・中学校ともに小(67)中(71)特別支援教育の指導上の工夫に関して、全国を下回っている。
 ・小・中学校ともに小(68)中(72)小学校教育と中学校教育の連携に関して、全国を下回っている。

④理科・英語科の指導方法



・理科に関して、(49)「自然の事物・現象から問題を見いだす指導」について、小学校では全国を上回っているが、中学校では下回っている。

・英語に関して、小学校では、(52)「外国語教育の充実に関して、必要な情報や研修、自己研鑽の機会を設けた」について、全国を上回っている。中学校では、(54)「英語で考えや気持ちなどを伝え合う言語活動やまとまった内容を英語で発表する言語活動」について、全国を下回っている。

⑤ICT を活用した学習状況

小(53)中(57)教員が大型提示装置等のICT機器を活用した授業を1クラス当たり週1回以上行った

小(58)中(62)児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、一人一人に配備されたICT機器を週1回以上使用させている

88 87

小(57)中(61)児童生徒が自分で調べる場面では、一人一人に配備されたICT機器を週1回以上使用させている

99 95

小(56)中(60)児童生徒一人一人に配備されたICT機器を、授業で週1回以上活用した

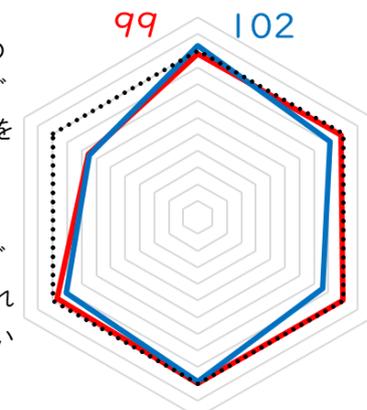
100 99

小(54)中(58)教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある

99 96

小(55)中(59)コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられている

100 93



— 青森県公立小学校
— 青森県公立中学校
..... 全国(公立)

小(59)中(63)教職員と児童生徒がやりとりする場面では、一人一人に配備されたICT機器を週1回以上使用させている

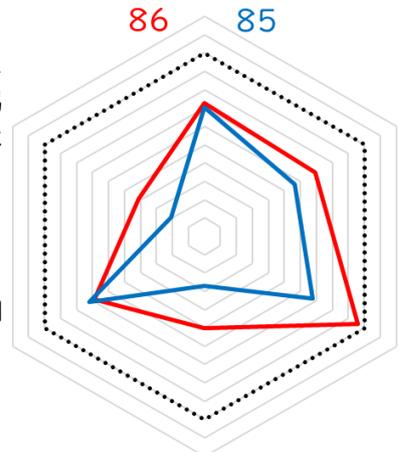
86 85

小(64)中(68)児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、持ち帰って家庭で利用できるようにしている

71 60

小(63)中(67)教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、ICT機器を活用している

84 86



小(62)中(66)一人一人に配備されたICT機器を使って、児童生徒が学校外の施設にいる人々とやりとりする取組を年に1回以上実施した

75 64

小(60)中(64)児童生徒同士がやりとりする場面では、一人一人に配備されたICT機器を週1回以上使用させている

85 78

小(61)中(65)児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、一人一人に配備されたICT機器を週1回以上使用させている

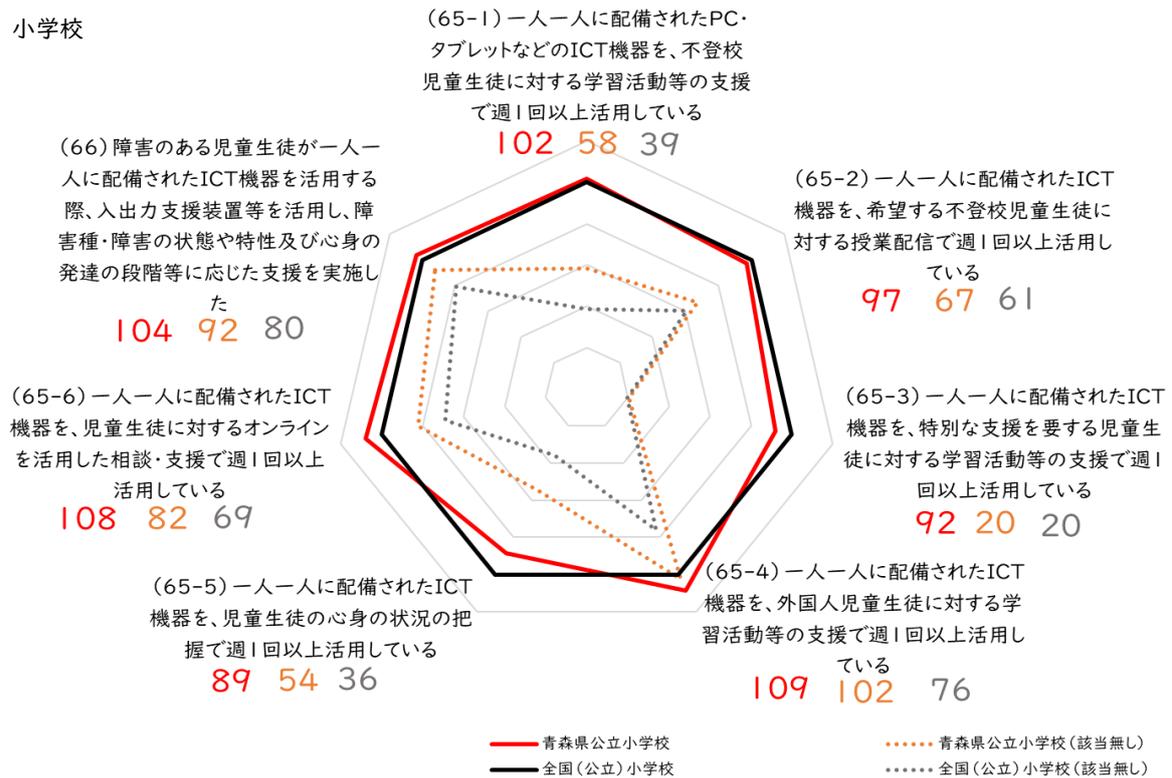
98 84

— 青森県公立小学校
— 青森県公立中学校
..... 全国(公立)

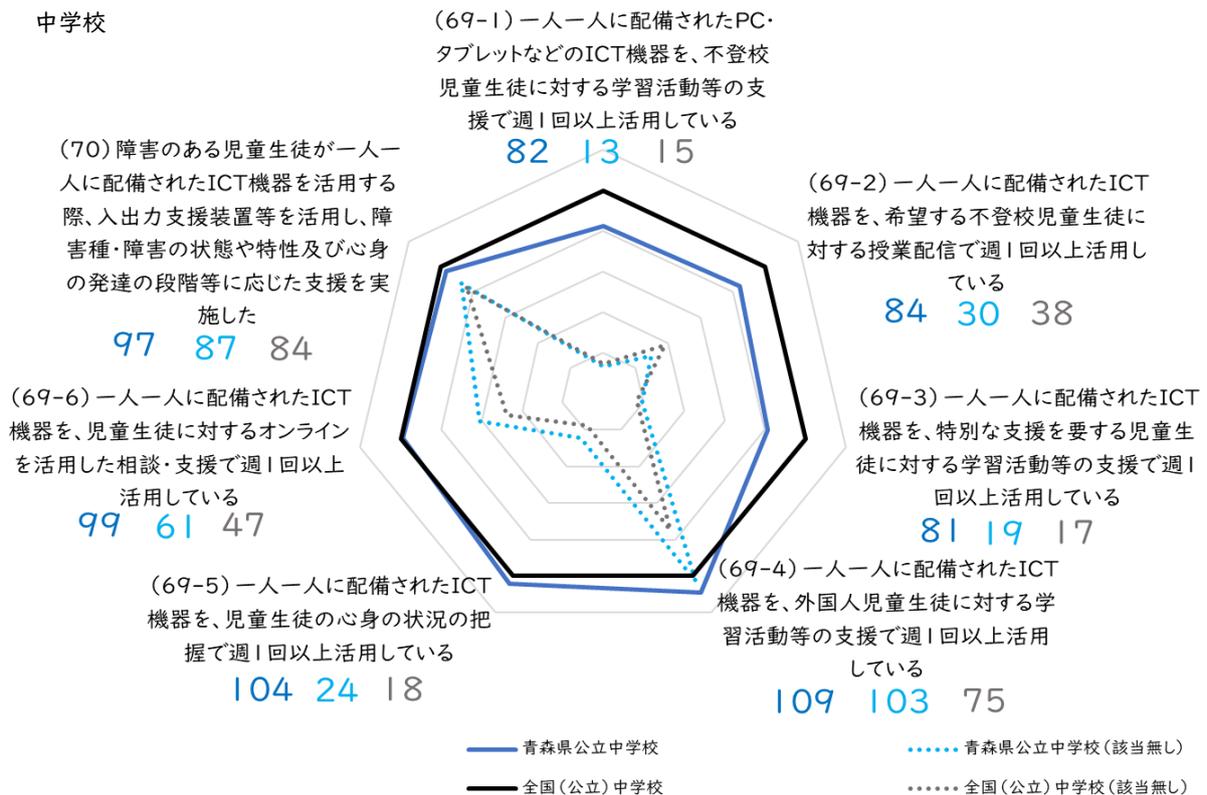
- ・ICT機器を授業に使う頻度については、小・中学校ともに全国平均並みである。
- ・小・中学校ともに、まとめ・発表・表現での使用頻度、双方向でのやりとりする場面での使用頻度、家庭へ持ち帰っての活用が全国平均を下回っている。

○ICTの活用は使用頻度だけでなく、目的に応じた効果的な使用方法が今後求められていくと考えられる。

小学校



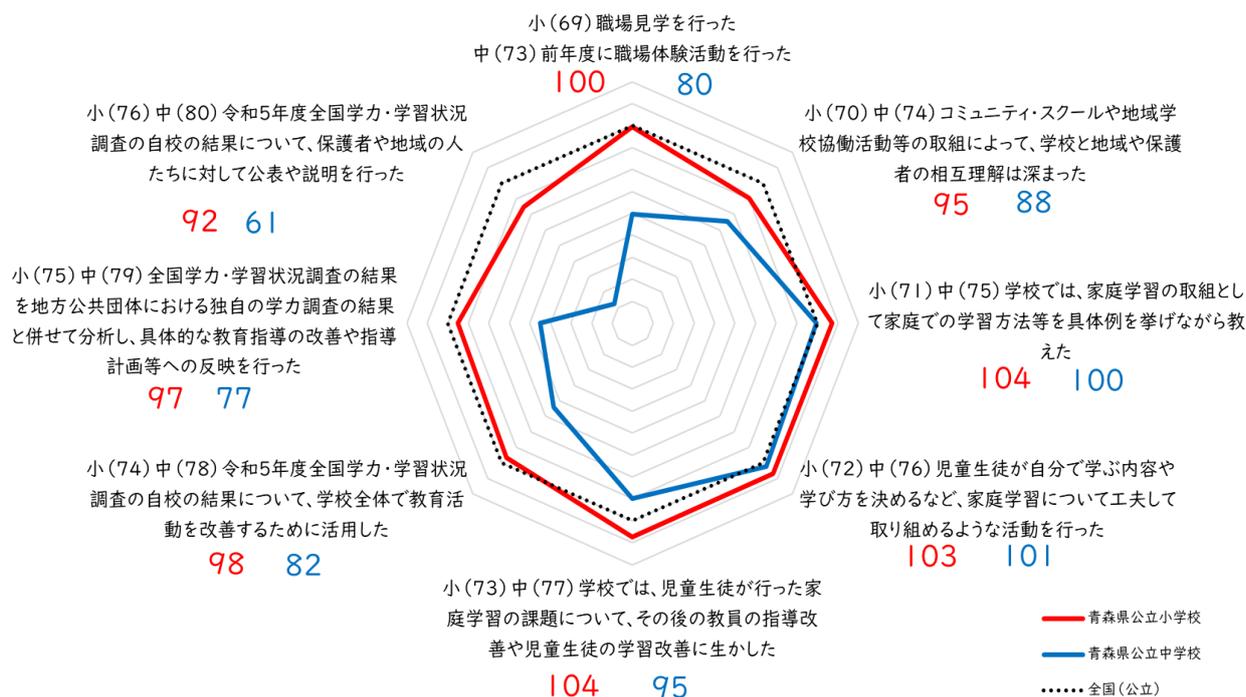
中学校



※上のグラフは各項目における「週1回以上活用している」及び「該当する児童生徒無し」の回答を合わせたものを、全国平均が100となるように作成したものである。また、点線は「該当する児童生徒無し」の回答のみを表している。

- ・ICT 活用の頻度は小・中学校ともに、小(65-4)中(69-4)外国人児童生徒に対する支援で全国を上回り、小(65-3)中(69-3)特別な支援を要する児童生徒への支援で全国を下回っている。
- ・小学校では、(65-5)心身の状況把握のための使用頻度が全国を下回っている。
- ・中学校では、(69-1、2)不登校生徒に対する支援への使用頻度で全国を下回っている。

⑥家庭や地域との連携等、家庭学習、全国学力・学習状況調査の結果の活用



・家庭学習に関する項目については、小学校では全国を上回っているが、中学校ではほぼ全国並みである。

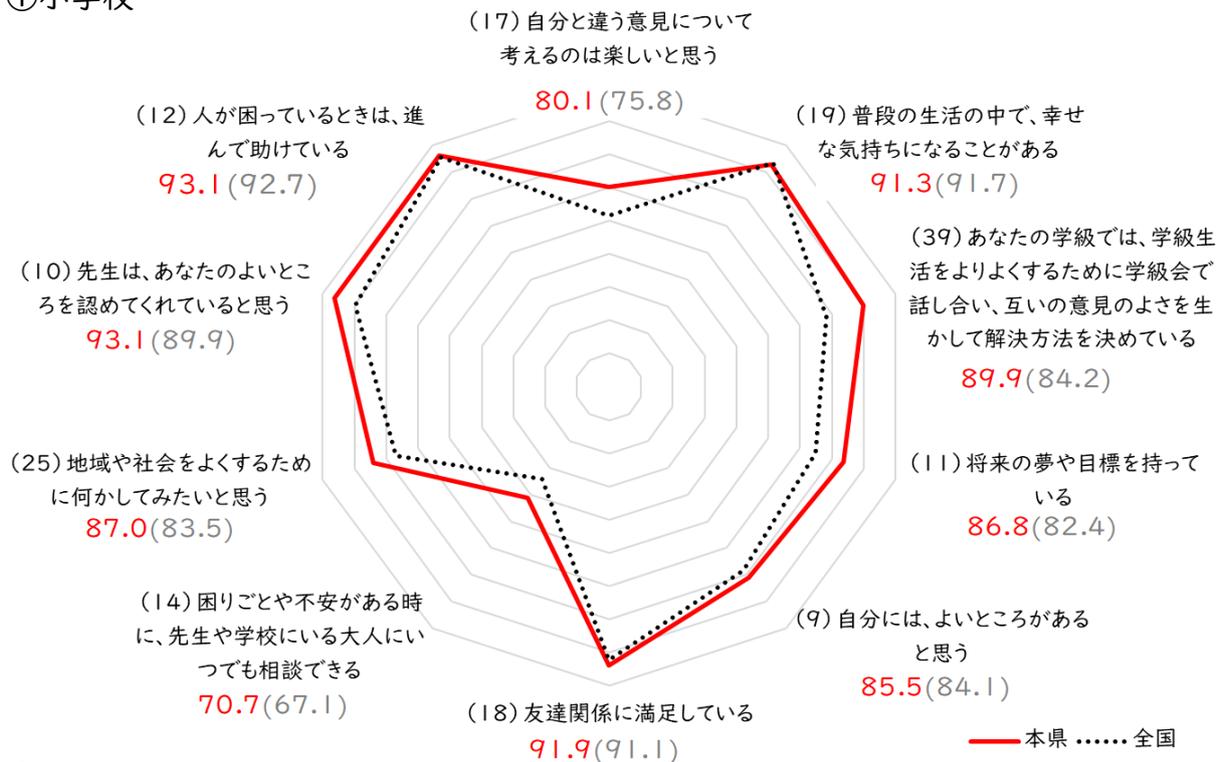
・全国学力・学習状況調査の結果の活用については、小・中学校ともに全国より下回っている。

○全国学力・学習状況調査の結果分析の活用が、各校における教育活動上の課題解決の一助になると考えられるので、各校の実情に応じた有効活用を期待している。

【参考資料】

こどものウェルビーイングに関連すると考えられる項目（児童生徒質問紙調査から）

①小学校



②中学校



上のグラフは児童生徒質問紙調査から、こどものウェルビーイングに関連すると考えられる項目を取り出したものである。なお、このグラフはそれぞれの項目での肯定的な回答の割合を集計したものである。

・小・中学校ともに全国平均をほぼ上回っている。

○各校においては自校の状況を丁寧に捉え、子どもたちがウェルビーイングを実感できるように、学校・地域・保護者が協力してどのようなことに取り組めるのかなどを考察するきっかけにしていればと思います。